

# 台風11号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成 26 年 8 月 6 日  
福井県農業総合指導推進会議

## <台風接近前の対応>

### 1 共通事項

#### 【用排水等の見回り注意】

豪雨・強風の中、圃場の見回りなどを行うと、河川や農業用水路への転落、ハウス損壊の危険があるので、大雨や強風が収まるまで見回りなどを控える。また、大雨が収まった後でも、増水した水路や危険な場所には近づかない。

#### 【ほ場の排水対策】

大雨によりほ場の冠水や浸水の恐れがあることから、ほ場の周囲や排水溝を掘り直す。特に、これまで冠水や浸水したことのあるほ場は、重点的に排水対策を実施する。

#### 【園芸施設等】

- (1) 強風に備え、破損している箇所や天窓等は早急に修繕し、ハウスのハウスバンドを締め直す。
- (2) フィルムの取付金具やハウスバンドをしっかり固定し、風が強くなってきたら天窓や入口を閉める。
- (3) 直管パイプ基礎部の埋め込みが浅くなっているものは、土を入れて土を締め固める。特に新設ハウスではアンカーを増設しておく。
- (4) フェーン現象で降雨前に外気温が高くなる場合は、風上側を閉め、風下側を解放してハウス内の温度上昇を防ぐ。換気扇のあるハウスでは、ハウスを密閉し、換気扇を稼働させてハウス内を負圧にしておく。
- (5) 周囲に防風ネットが設置してある場合は、ネットが飛ばされたりしないように点検、補強を行う。施設周囲の風により飛ばされやすいものは片づけておく。

### 2 水稲

- (1) 台風接近に備えて早めに深水とする。出穂期頃となっているものでは、特に蒸散が盛んとなるので注意する。
- (2) 出穂期頃のものでは、褐変粃・茶米発生防止対策として、穂いもち防除をかねてブラシン粉剤DL またはブラシンプロアブルを散布する。

### 3 大豆

- (1) 圃場排水が速やかに行えるように、排水溝や落水口を確認し手直しを行う。また、枕地の培土が排水を妨げることがあるので、切り通しをしておく。
- (2) 排水機場がある地区では事前に点検を行い、降水量に応じて排水する。

### 4 野菜(露地)

- (1) 支柱の緩みを直し、支え棒、番線張り等を行い、十分に補強する。
- (2) 直撃が予想される場合、果菜類では、果実を若穫りしておくとともに、不良果や不良な茎葉はとり除き、株の負担を少なくし草勢の低下を防ぐ。
- (3) 土寄せ等を行い、株のゆれを軽減する。
- (4) 強風により蒸散が促進されるので、土壤が乾燥している場合はかん水を行う。特にフェーン風を伴う強風が予測される場合は、かん水により土壤表土の流亡、飛散を防ぐ。

### 5 果樹

#### 【全樹種】

- (1) ブドウなどの収穫期に達している果実は速やかに収穫を行う。ただし、未熟果の収穫は行わない。
- (2) ブドウの施設では、共通事項を参照して、施設の強風被害を回避する。

#### 【ナシなど棚栽培果樹】

- (1) 果実の落果を防ぐために、あおり止め等の点検を行って棚面の動揺を防ぐ。
- (2) 台風が接近し、ネットおよび棚の強度以上の強風が予想される場合はネットをはずす。

#### 【カキ、ウメなど立木果樹】

- (1) 強風による倒木や損傷を防止するため、支柱等により固定する。特に幼木や根の浅い樹種は倒木しやすいので注意する。
- (2) 枝の揺れによる果実の傷や落果を防ぐため、風当たりの強い部位の枝を中心に支柱の点検、補強、設置を行う。

### 6 花き

- (1) 畝の両端の親支柱や中間支柱はしっかり立て直し、中間にタルキグイを入れて補強する。
- (2) 畝の横風に対しては1、2本おきに隣りの畝の中間支柱どうしが通路をまたぐようにハウスバンドなどで連結して固定する。
- (3) ネットは頂点から3分の1程度下がったところで支持する。さらに畝を囲むようにハウスバンドをネットの下に張り、倒伏を防ぐ。
- (4) 収穫間近の場合は、やや早めに収穫する。

## 7 畜産

- (1) 畜舎や堆肥舎等の施設や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。
- (2) 放牧地においては、牧柵等の施設の破損、土砂崩れ等の危険がないか点検を実施する。また、危険と判断した場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。
- (3) 牧草地の浸冠水に備え、牧草地内や周囲に排水溝を設ける。

### <台風通過後の対応>

#### 1 共通事項

- (1) 事故防止の観点から、台風通過後におけるほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が収まってから行う。また、ほ場の畦畔や法面が崩壊しやすいので、厳重に注意する。
- (2) ほ場や施設が冠水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、できる限り速やかに排水する。
- (3) マルチをしている畝が冠水した場合は、マルチ内の土壌水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩の部分までめくりあげたりして、畝の土壌水分を適正にする。
- (4) 台風が通過した後は、速やかに施設などの点検を行い、補修や修理が必要な場合には適切な処置を行う。
- (5) 台風通過後の急激な気温の上昇に注意し、施設ではサイドビニールや屋根ビニールの巻き上げ等により換気を十分に行い、適切な温湿度管理に努める。
- (6) 台風通過後には、茎葉の被害により、病害が発生しやすくなるので、病害防除を徹底する。

#### 2 水稲

- (1) 台風通過前にブラシンを散布できずに強風に遭遇したものでは、通過後の散布でも褐変粃・茶米発生対策としての効果は期待できるので散布を行う。ただし、ブラシンの使用回数は2回までなので注意する。
- (2) 強風やフェーンの影響があるうちは深水を保ち、影響がなくなったら、速やかに落水し、以後の水管理は間断通水に戻す。
- (3) 出穂期に当たるので、粃の褐変等の被害が懸念されるので、特にコシヒカリで十分な対応が求められる。

#### 3 大豆・そば

- (1) 雨が多かった場合は圃場の停滞水を早急に排水し、立ち枯れ性病害や根腐れを防

止する。

#### 4 野菜(露地)

- (1) 野菜苗等のしおれが甚だしい場合は、寒冷紗やべたがけ資材等を被覆して、植物体温の低下と蒸散の抑制を図る。この場合、直接ベタがけするよりもトンネル状にかける方が茎葉の傷みが少ない。
- (2) 茎葉の被害により、細菌病等の病害が発生し易くなるので被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。また、茎葉に付着した泥等は、水で速やかに洗い流す。
- (3) 果菜類で支柱等が倒れているものは速やかに引き起こす。また、果実の被害程度に応じて摘除する。
- (4) 草勢を回復するため、台風通過後、液肥の葉面散布や追肥を行う。また、土壌表面が固着している場合は、軽く中耕等を行い、土壌を膨軟にし根張りの回復を図る。
- (5) 根元が露出している場合は軽く土寄せを行う。

#### 5 果樹

- (1) 倒木した場合は速やかに起こし、支柱等で固定し、土寄せする。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻して癒合剤を塗布する。
- (2) 果実が結実しているナシ、カキ等は園内を見回り傷果を摘果する。また、果実品質を向上させるために土壌乾燥に努める。
- (3) 長雨による病気の蔓延や、風による傷口からの病気の感染を防ぐために、農薬登録内容に従って殺菌剤を散布する。

#### 6 花き

- (1) 茎葉の被害により、病害が発生しやすくなっているため、薬剤などで病害防除を徹底する。
- (2) 強風により傾いた花きは、長時間そのままにしておくと元に戻らないため、速やかに起こす。

#### 7 畜産

- (1) 畜舎等の施設に浸水した場合は、すぐに排水し疾病発生予防のため洗浄と消毒を実施し、畜舎等の乾燥に努める。
- (2) 侵食や土砂流入が発生した場合は、早急に現状復帰を図り、必要によっては牧草の播種等を行い生産力の回復を図る。